

## 映画「見えないから見えたもの ― 拝啓竹内昌彦先生 ―」感想

備前市立伊里中学校2年生

- 竹内先生は、今までとても苦しい経験をしていたのだなと思いました。私は全盲の人に会ったことがないから、普通の生活がどれくらい大変なのかわからないけれど、竹内先生はとてもすごいと思いました。目が見えないだけで”イジメ”られるのはとても辛いことです。見えないことをいいことに牛乳に消しカスを入れることはとてもひどいことをしていることだと思います。今もまだ”イジメ”があるので、それが少しでも減って欲しいと思っています。
- 目が見えないからといじめられ、悪口をいわれていたのに教師を目指していたことがとてもすごいと思った。そんな昌彦さんを受け入れた糸子さんはすごく優しい方だと思った。できた子供にも障害があると聞いた時、昌彦さんはとても辛かったと思った。同じ人間なのに、差別するのはおかしいと思った。自分はなりたくてなった訳ではないのに、そういう風に見られたり、されたりするのは、私も見ていて悲しかった。受け入れるのは難しくても、ちゃんとその一人ひとりを見てあげられるような人になりたいと思った。自分の命を大切に生きていきたいと思った。
- 目が悪い竹内先生は、子供の頃に「めくら」とか言われていたけど、いじめていた子のお母さんにいやだったことを、きちんと伝えたことはすごいなと思った。また、糸子さんという心の優しい人に出会えてよかったと思ったし、竹内さんも少し前向きになったように感じた。これは糸子さんやたくさんの方の支えがあったからだと思う。私は点字ブロックの上をなるべく通らないなど、自分にできることをしたい。